

河北潟湖面利用協議会

記録② 問題提議から10年経過

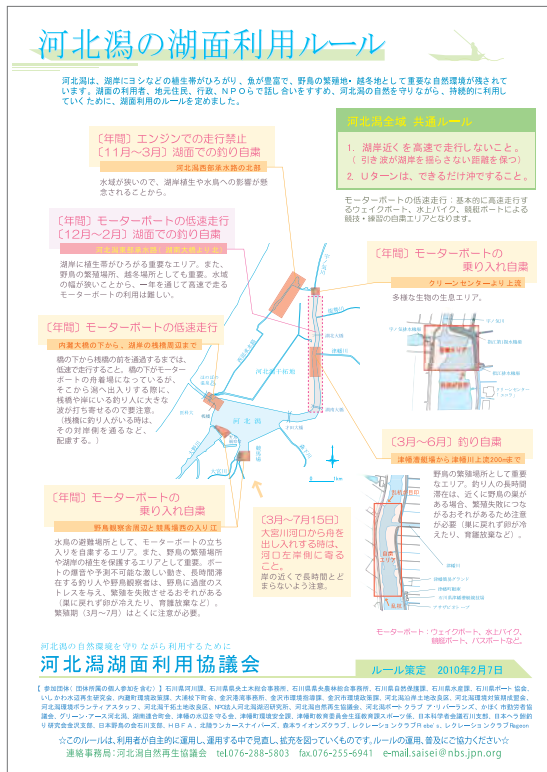
河北潟では、河北潟の湖面を利用する人たちによって、自主的なルールがつくられています。前号より、河北潟湖面利用協議会の発足の経緯と、これまでにについて記録しています。

2010年2月「第1回河北潟湖面利用協議会」

- ・詳細ルールが採択される。
- ・河北潟湖面利用協議会の発足
(第3回湖面利用を考える集いを第1回協議会とする。)
 - ①自主ルールの普及状況、②各団体での運用状況と調整の必要性、③今後の活動についてなど、運用のための話し合いが今後も必要である。
- ・河北潟湖面利用協議会を年2回開催することが決まる。
- ・ルールのチラシを作成し普及することが決まる。

協議会の後に作成されたチラシ

5000部を作成。各団体や釣具店に配布を依頼した。



2010年8月「第2回河北潟湖面利用協議会」

- ・3月にチラシを作成し、3000部を配布した。
- ・石川県河川課の協力で、河北潟の湖周囲の5箇所に看板を設置する段取りがすすんだ。かほく市では独自の看板が1基設置された。
- ・①自主ルールの普及状況、②各団体での運用状況と調整の必要性、③今後の活動について意見交換がおこなわれた。

- ・ルールが厳しいという意見や、団体に属さず個人で釣りをしている人にはルールを知らない人もまだ多いことなど、普及状況について確認した。
- ・今後の財政的なことや事務局運営については継続審議とする。

2011年2月「第3回河北潟湖面利用協議会」

- ・①河北潟湖面利用ルール運用1年を経過しての見直し、②ルール普及に関する課題、③そのほかについて意見交換がおこなわれた。
- ・ルール看板5地点の確認。内灘(放水路口左岸)、内灘(干拓地正面堤防西端)、津幡町(漕艇場前)、金沢市(金腐川河口左岸)、金沢市(干拓地才田大橋西)。

2011年8月「第4回河北潟湖面利用協議会」

- ・話題提供「河北潟の湖岸に生息する鳥類について」
日本鳥類標識協会 中川富男氏
- ・①河北潟湖面利用ルール看板の効果、ルールの普及状況など、②ルール普及に関する課題(見直し点)など、③野生生物の保全について、そのほかについて意見交換がおこなわれた。
- ・ルールの議論段階から運用段階に変わってきており、開催の頻度を年一回として、6月の第一日曜日に実施することが決まる。

河北潟では、フナ釣り、バス釣り、ウェイクボード、ジェットスキー、競艇、カヌー、野鳥観察など様々な形での利用がみられます。以前は、高速で走るボートに驚いて飛び立つカモの群れが頻繁に目撃され、湖面を走るエンジン付きのボートの台数も目立ち、河北潟が狭くなった印象を受けたこともありました。河北潟の自然環境保全と、適正な湖面利用のために、話し合いが重ねられてきたことで、様々な問題が回避されているものと思われます。河北潟の湖面利用ルールの議論段階で重視されたことは、ルール作りを通じて話し合いをおこなうこと、規制される立場の側も集まってお互い納得して作ること、対話の力を重んじ時間をかけてルールを作り見直し普及することです。2012年からルールの運用と見直しが年に一回の協議会によりおこなわれています。

(次号21-3につづく。)